

2008年上半期[1月～6月]コンピュータウイルス届出状況

独立行政法人 情報処理推進機構(略称:IPA 理事長:西垣 浩司)は、2008年上半期[1月～6月]のコンピュータウイルス届出状況をまとめました。

1. 届出件数

半期毎の届出件数の推移(図1)を見ると、減少傾向が続いています。2005年上半期と2008年上半期を比較すると、28,265件から10,993件と、3年前の約4割の水準となりました。要因として、近年、大量メール配信型ウイルスの出現が少なく、大規模に被害を発生させる事象が減少したことから、届出件数も減少しているものと推測されます。

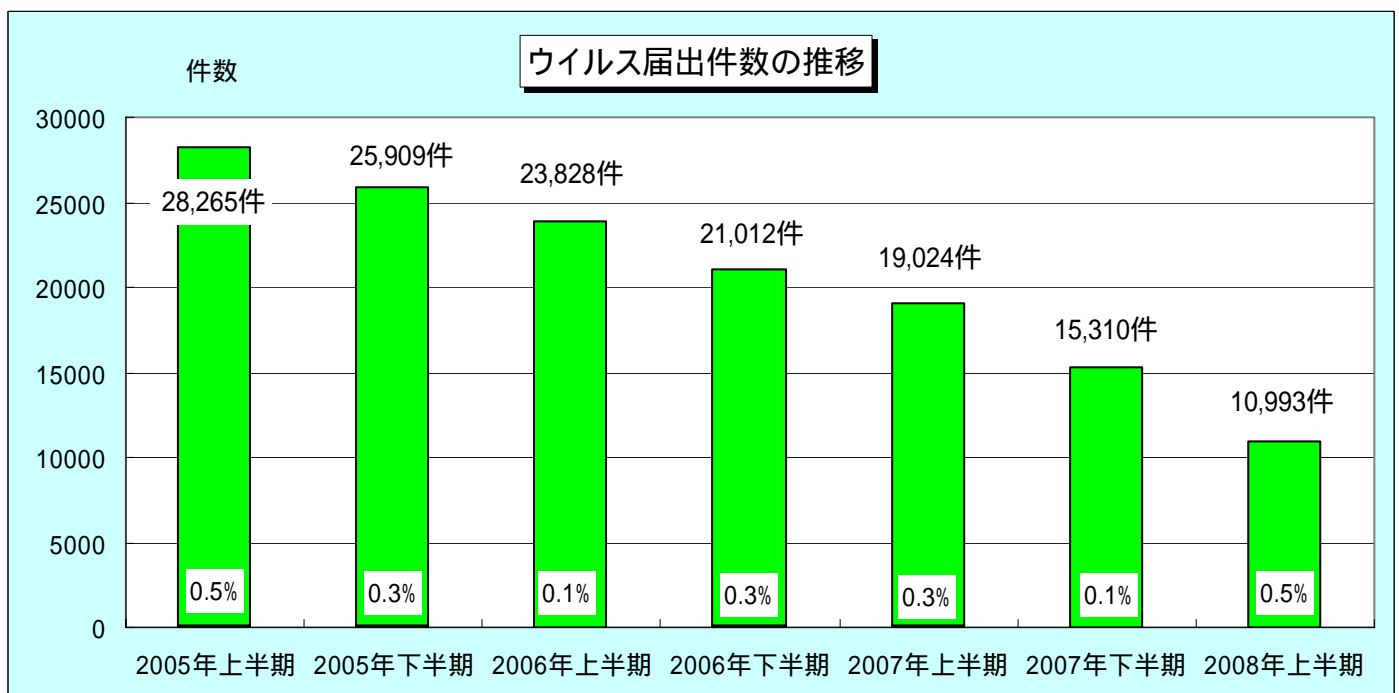


図1：届出件数の推移

図中の%表示は感染被害に遭った割合

2. ウイルス検出数の推移

1年間の検出数の推移を見ると、2007年9月から11月にかけて増加しましたが、その後、減少傾向に移り、2008年3月以降は横ばいで推移しています。2007年10月のW32/Lookedや11月、12月のW32/Strationなど、新種や亜種が出現したタイミングでは、当該ウイルスが一時的に増加するケースが見られました。

ただし、全体に影響を与えているウイルスは、依然としてW32/Netskyとなっており、総検出数の大多数を占める状況が続いています。

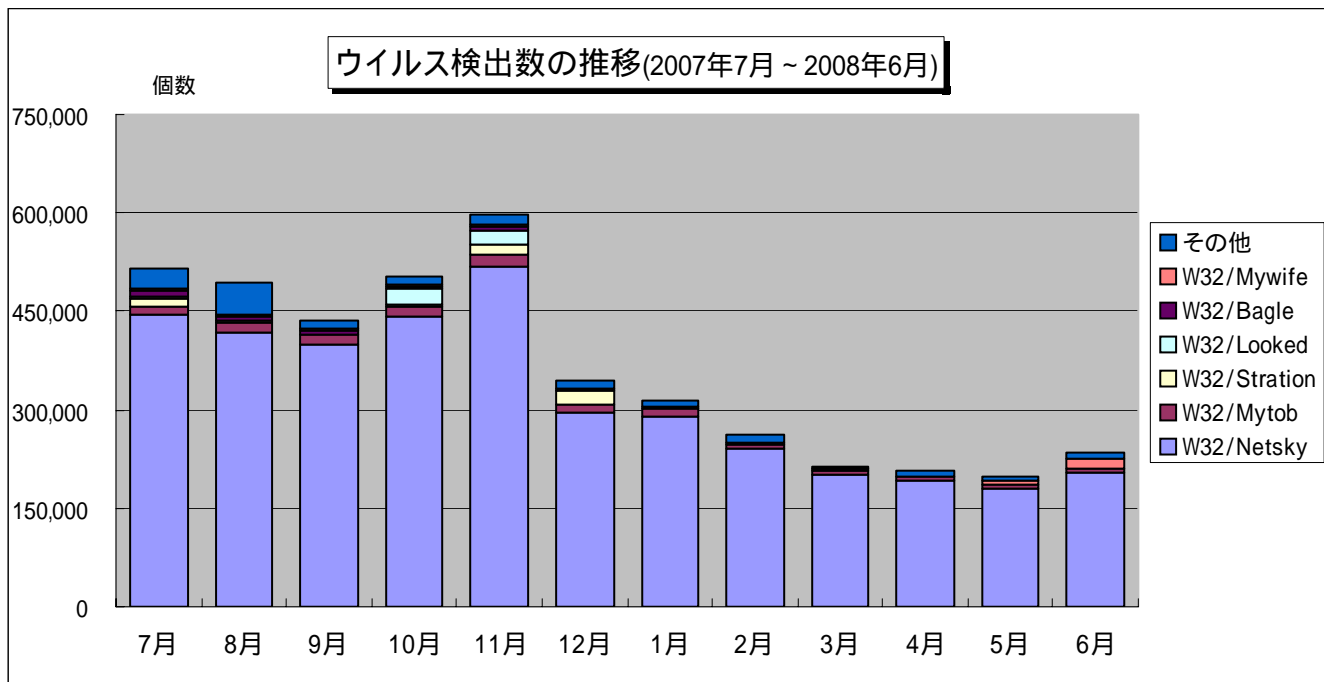


図 2：ウイルス検出数の推移

3. ウィルス別届出件数

IPA に届けられたウイルス別届出件数の推移を見ると、検出数と同じく、W32/Netsky が突出していますが、届出件数は減少傾向を示しています。

このグラフにあるウイルスは、感染しても見た目にわかる症状がなく、感染していることに気付かないケースが多いと推測されます。不審な症状がなくても、セキュリティ対策ソフトを利用して、定期的にウイルスチェックを実施するようにしてください。

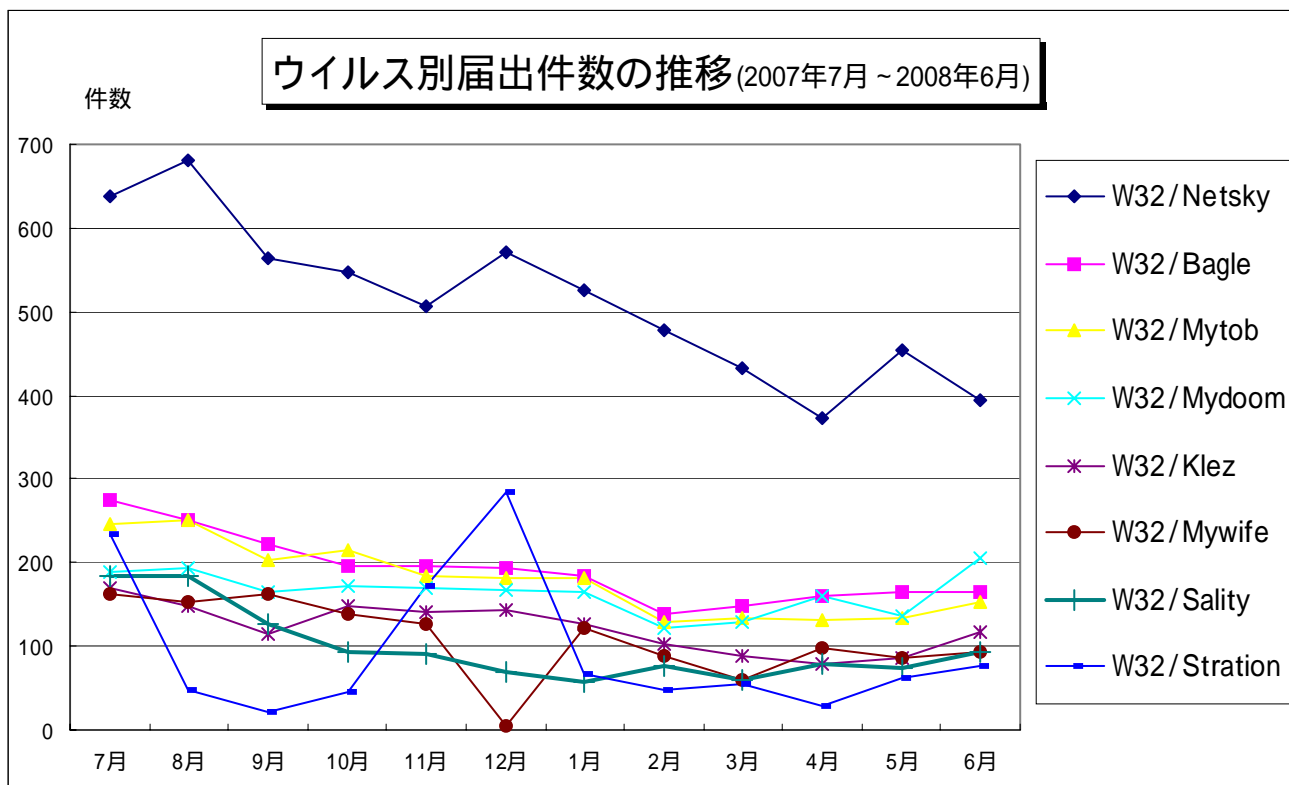


図 3：ウイルス別届出件数の推移

お問い合わせ先
 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター
 花村 / 加賀谷 / 大浦
 Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518 E-mail:isec-info@ipa.go.jp